

総合計画実施計画 (令和7～9年度) 策定方針

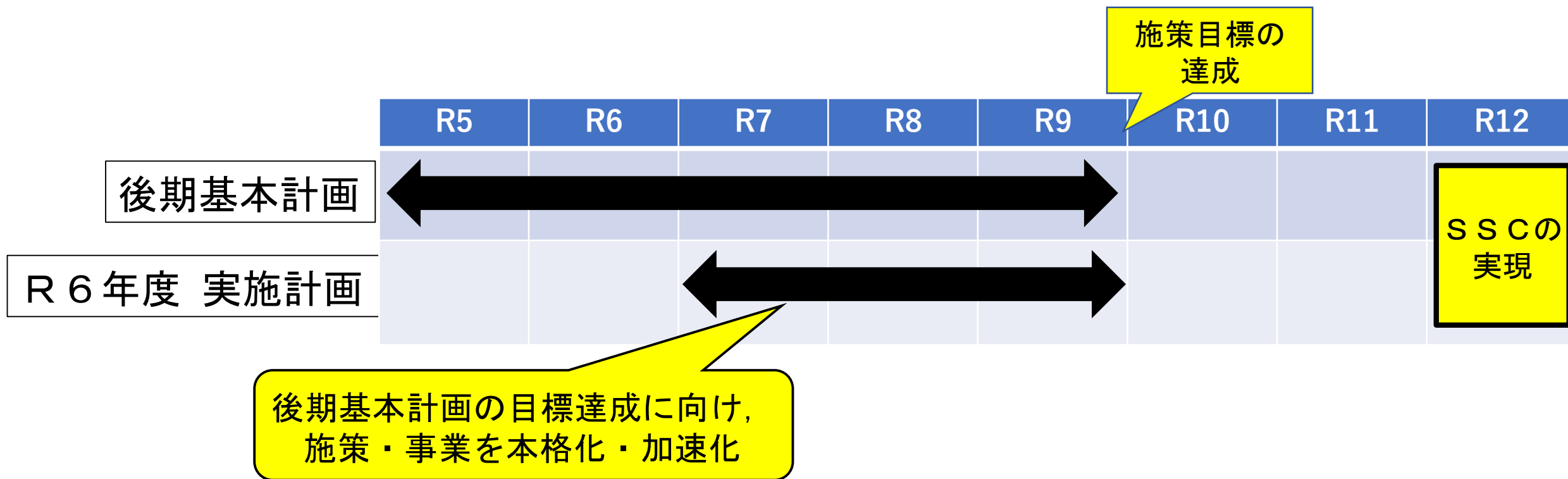
総合政策部 政策審議室

本市が将来にわたって持続的に発展していけるよう、本格化する人口減少や人口構造の変化など様々な時代の潮流に的確に対応しながら、計画的で戦略性の高い行政経営を展開していくため、**「第6次総合計画後期基本計画」に掲げた目標の実現に向け、施策・事業をどのように実施していくかを明らかにし、もって予算編成及び事務執行の指針とするもの**

構 成	事業計画及び財政計画
期 間	令和7年度から令和9年度までの3か年

3. 今回の計画の性格

「第6次総合計画後期基本計画」の最終年度となる令和9年度までの計画となるため、後期基本計画の目標達成に向け、「戦略事業」や「まちづくり好循環プロジェクト」をはじめとする**施策・事業を本格化・加速化させ、総仕上げとなる計画**とするとともに、「**スーパースマートシティ**」の具現化・深化を着実に進めるための**計画**とする。



4. 本市を取り巻く状況

【社会環境】

(1) 少子・超高齢社会の急速な進行

- ・ 我が国のこども（15歳未満）の数は43年連続で減少している一方で、総人口に占める高齢者の割合は過去最高を更新し続けていることに加え、75歳人口については、「団塊の世代」の影響により、初めて2,000万人を超えた。
- ・ 今後、高齢化率の上昇と生産年齢人口の減少の更なる進行により、労働需要の不足や介護・医療負担の増大などの影響が懸念される。

4. 本市を取り巻く状況

【国等の動向】

(2) レジリエンス強化の促進

- ・ 令和6年能登半島地震の発生を受け、**激甚化・頻発化する自然災害に対する平時からの備えや強固な基盤整備の必要性がより強く認識**されている中、国において、「レジリエントで安全・安心な社会」の実現に向けた検討を進めている。

(3) 国を挙げた「働き方改革」の推進

- ・ 国においては、**デジタルを活用した事業変革・職場環境整備を推進**しており、昨今の生成AIなどの先端技術の適切な利活用に向けた事業検証を進めている。
- ・ 本年より、**建設業、ドライバー、医師等の時間外労働に上限規制が適用され、長時間労働の解消等による労働環境の改善が期待**できる一方、**労働時間の減少による人手不足の深刻化等への対応が課題**となっている。

4. 本市を取り巻く状況

(4) 国による経済財政運営等の基本方針等の提示

- このような中、国においては、令和6年6月に「経済財政運営と改革の基本方針2024」を閣議決定し、デフレ完全脱却に向けた「成長型の新たな経済ステージへの移行」を掲げ、**物価上昇を上回る持続的な賃上げの定着や、成長分野への人材の移動を促進する全世代のリスキリング推進に取り組む**こととしている。
また、中堅・中小企業や物流業界の人手不足の解消、脱炭素の促進といった**社会課題の解決に向けた先端技術の社会実装を推進するための戦略的な投資**などを通じた持続可能な経済社会の構築を目指すとともに、引き続き、**少子化対策・子ども政策や地方行財政基盤の強化**に取り組むこととしている。
- 「女性活躍・男女共同参画の重点方針2024」において、**企業における女性活躍や女性の所得向上・経済的自立に向けた取組の推進と、個人の尊厳と安心・安全が守られる社会の実現**等に向け、これらを推進するための「人材の育成」を横串に据え、持続的で広がりのある推進を図ることとしている。

5. 本市のまちづくりの基本的な考え方

(1) スーパースマートシティの実現

- ・ 本格化する人口減少，少子・超高齢社会においても，本市が持続的に発展していくため，概ね2030年頃を見据えた具体的なまちの姿として，「子どもから高齢者まで，誰もが豊かで便利に安心して暮らすことができ，夢や希望がかなうまち『スーパースマートシティ』」の実現を目指し，国際目標であるSDGsの達成にも貢献していく。
- ・ その具現化に当たっては，「まちづくり好循環プロジェクト」に位置付けた，効果が高い先導的な取組や，複数の分野の連携が不可欠な横断的な取組を重点的に実施していく。

参考1 「『SSC』で実現する暮らし」のイメージ

参考2 「まちづくり好循環プロジェクト」の位置づけ等

※ いずれも「第6次総合計画後期基本計画」より抜粋



5. 本市のまちづくりの基本的な考え方

(2) 『国内屈指の魅力と活力，存在感を備えるまち』の実現

- ・ **昨年，ライトラインが開業**し，市民の移動手段として定着したことに加え，地域経済の活発化やシビックプライドの醸成など，効果が目に見えるかたちとなり，**国内外から高い評価を受けるとともに，本市のポテンシャルが高まっている。**
- ・ こうした機会を捉え，人口減少・少子高齢化が進行する中においても，**本市が，多くの人や企業から選ばれるとともに，本市を選んだ人・企業が，自ずと宇都宮のよさを発信する，まちづくりの担い手の増加や企業の定着を促進する好循環を生み出し，これからのうつのみやを担う多くの「人」がまちを活性化させる『国内屈指の魅力と活力，存在感を備えるまち』の実現を目指す。**
- ・ 実現に向けては，より多くの「人」が，高い人間力と多様な個性を活かし，自己実現や社会の発展，まちの活性化に精力的に取り組む環境を創り上げていく必要があることから，**これからのうつのみやを担う「人」を持続的に育むための分野横断的な取組を強化し，優先化・重点化を図る施策・事業に盛り込んでいく。**

6. 施策・事業の選択の考え方

(1) スーパースマートシティの具現化・深化に向けた施策・事業の推進

- ・ 都市の装置としてのライトラインのフル活用と新たな価値の創出により、「地域共生社会」・「地域経済循環社会」・「脱炭素社会」の構築と、その基盤となる「NCC」の形成を更に前進させるため、これらに資する取組の優先化・重点化を図る。

※ 3つの社会の構築と「NCC」の形成に向け、優先的に取り組む施策・事業の方向性については10ページ以降を参照

6. 施策・事業の選択の考え方

【3つの社会の構築と「NCC」の形成に向け、優先的に取り組む施策・事業の方向性】

① 地域共生社会



分野

優先的に取り組む施策・事業の方向性

少子化対策

- 社会全体で子どもを産み・育てる支援の充実
- 子どもが夢を目指せる環境づくり

男女共同参画・女性活躍推進

- 社会全体で男女共同参画・女性活躍を推進する環境づくり，支援の充実

健康寿命の延伸

- 高齢者・障がい・子どもの発達等を支える環境づくり
- 様々な分野で活躍できる人材育成・確保に向けた環境づくり
- いつまでも健康で，生き生きと暮らし，活躍できる社会の実現

地域コミュニティの活性化

- みんなで地域を支える仕組みづくり

② 地域経済循環社会



分野

優先的に取り組む施策・事業の方向性

地域経済を牽引する産業の振興

- 地域経済をけん引する企業立地の促進と定着促進に向けた拡大再投資への支援
- G X・D Xによる産業振興
- 地域経済の活性化に資する人材の確保・育成

魅力・交流の創出・活性化

- 交流・関係人口の拡大による地域経済の活性化
- スポーツ資源のフル活用に向けた環境の整備

6. 施策・事業の選択の考え方

【3つの社会の構築と「NCC」の形成に向け、優先的に取り組む施策・事業の方向性】

③ 脱炭素社会



分野

優先的に取り組む施策・事業の方向性

2050年カーボンニュートラルの実現に向けた脱炭素の加速化

- 官民連携による脱炭素化の促進
- 行政における率先した脱炭素化
- 市民一人ひとりの行動変容の推進

④ NCC



分野

優先的に取り組む施策・事業の方向性

魅力ある拠点の形成と移動しやすい交通ネットワークの深化

- 駅東側のライトラインを活用した沿線まちづくりの推進
- 駅西側のライトライン整備の推進とウォーカブルなゆとりあるまちなか空間の形成
- 地域経済を牽引する企業立地の促進と定着促進に向けた拡大再投資への支援【再掲】
- 誰もが快適に移動できる総合的な交通ネットワークの実現

安全・安心なまちの基盤の強化

- 災害に強い強靱なまちづくり

6. 施策・事業の選択の考え方

(2) これからのうつのみやを担う「人」を持続的に育むための取組の強化

- ・ まちづくりや経済発展の原動力である「人」を持続的に育てるため、**人間力を高める教育の充実と、多様な人材が個性を活かして活躍できる環境づくり**に資する取組を強化していく。

※ 目指す「人」の姿と、優先的に取り組む施策・事業の方向性については
13 ページを参照

6. 施策・事業の選択の考え方

【目指す「人」の姿と、優先的に取り組む施策・事業の方向性】

目指す「人」の姿	優先的に取り組む施策・事業の方向性
夢にあふれる宮っ子	●子どもが夢を目指せる環境づくり ⇒ 多様性を認め合う教育の充実，キャリア形成・社会で生き抜く力の養成，スポーツを通じた人材育成の基盤づくり 等 ●スポーツを活用したシビックプライドの醸成とこれを契機とした人材育成の活性化 ⇒ 国際的なスポーツイベントの高付加価値化，スポーツと地域資源を活用した新たな魅力の創出 等
「宇都宮愛」にあふれる若者	●若者・余所者のまちづくりへの参画 ⇒ 移住者，関係人口，大学生などによる地域まちづくりの促進，まちなか居住の促進 等 ●地域コミュニティの活性化 ⇒ 若年層が活躍する自治会づくり，地域における互いに助け合う仕組みの強化 等 ●スポーツを活用したシビックプライドの醸成とこれを契機とした人材育成の活性化【再掲】
バイタリティにあふれる大人	●女性の活躍 ⇒ 健康づくりの支援，女性に選ばれるまちの構築 等 ●シニア世代の活躍 ⇒ いきがいを持った活動支援，高齢者・障がい者支援の充実，スポーツを活用した健康づくり 等 ●多様な人材の活躍 ⇒ 担い手不足の分野への外国人人材の活用・まちづくりへの参画促進 等 ●スポーツを活用したシビックプライドの醸成とこれを契機とした人材育成の活性化【再掲】

7. 策定に当たり配慮すべき事項

(1) 根拠に基づく施策・事業の立案, 「アジャイル型」の施策・事業の推進

- ・ 施策・事業の検討に当たっては, 十分なデータ等の収集・分析・予測を行い, 根拠に基づいて事業を推進する, いわゆる **EBPM※**を基本とする。

ただし, **事前に効果を検証する必要がある場合は, 仮説に基づき, 事業を試行的に実施するなど, 柔軟に対応する。**

※ エビデンス・ベースド・ポリシー・メイキング (証拠に基づく政策立案)

- ・ さらに, その運用に当たっては, **施策・事業の到達目標は適切に設定した上で, 本市を取り巻く状況は常に変化するものであることを前提に, 短期間で立案, 実行, 評価, 改善を繰り返す「アジャイル型」の施策・事業を推進していく。**

7. 策定に当たり配慮すべき事項

(2) 多様な主体との共創，連携による施策・事業の検討

施策・事業の実施にあたっては，「市民，団体，事業者，行政」が持つ技術やノウハウなどの強みを活かす「共創・協働」，「公民連携」（PPP）を基本とし，特に，共創のまちづくりを進める「うつのみや未来創造プロジェクト」など，若年世代ならではの自由な発想により導出された「本市にあってほしい取組」については，提案内容を取り入れ，速やかな実現を図っていく。

(3) 広域的な視点からの施策・事業の検討

圏域の状況を的確に捉え，県や周辺市町等と連携しながら，相乗効果やスケールメリットが発揮できるよう施策・事業を積極的に検討し，本市の更なる交流人口の増加や地域経済の活性化はもとより，**圏域全体の持続的な発展**にもつなげていく。

7. 策定に当たり配慮すべき事項

(4) 時機を捉えた施策・事業の検討，既存事業の見直し

- ・ 将来のうつのみや像の実現に向けた施策・事業を検討しつつ，社会経済状況の変化や市民ニーズなどを踏まえ，**早急に対応する必要があるものについては，実施計画の策定を待たずに前倒しで対応するなど**，時機を捉えて積極的に取り組む。
- ・ 施策・事業の立案に当たっては，**その効果を明らかにした上で，既存事業における効果を改めて検証し，より効果の高いものとなるよう必要に応じ見直しを行い，新規事業と併せて総合的に最適化を図る。**

(5) 持続可能な財政構造を踏まえた施策・事業の検討

国等の補助事業の積極的な活用や新たな収入確保策の導出による，歳入の確保や財政負担の平準化などの視点から検討を行う。

7. 策定に当たり配慮すべき事項

(6) 公共施設の老朽化を見据えた施策・事業の検討

- ・ 既存施設については、**人口構造の変化を踏まえた今後の施設機能の必要性について整理**し、機能を残す場合については、以下の視点を十分に考慮した上で、**長寿命化改良や規模の適正化・廃止、集約・複合化などの対応方策を検討**していく。

(考慮すべき視点)

県・民間施設との施設機能のすみ分け、人口構造の変化を捉えた利用者数の見込み、ランニングコスト、施設の老朽化の状況

- ・ **インフラの維持・管理においてもデジタルを活用したDXに取り組む**など、市民の安全・安心で豊かな生活の実現に寄与していく。

8. 実施計画策定スケジュール

令和7年 2月頃 計画の公表（概要版）

3 「スーパースマートシティ」で実現する暮らし

「スーパースマートシティ」が目指す将来のまちの姿をわかりやすくイメージできるよう、「スーパースマートシティ」を構成する3つの社会ごとに、宇都宮市に住む人々の暮らしに焦点をあてた複数のストーリーとして、「スーパースマートシティ」で実現する暮らしを紹介しています。

総合計画に掲げる取組を実行していくことで、市民一人ひとりの暮らしがどのように変化するのか、理想や期待も込めて描いています。

絆を深め、共に支え合う「地域共生社会」

①様々な場所で、誰もがつながり、支え合える



小学7年生の鈴木さんには共働きの両親がいます。7人が仕事で帰りの遅いときは、放課後「宮っこの居場所」*で学校の宿題をしたり、遊んだりして過ごします。通ううちに、学年の違う新しい友達もできました。

時には、お母さんも一緒に「宮っこの居場所」に行き、おいしいごはんを食べながら保護者同士で談笑し、子育てや生活の悩みを共有しています。

中学3年生の渡辺さんは1年前から学校に行くことができませんが、毎日、自宅でオンライン授業を受けています。オンライン上では自分の分身となるアバターを介して、他の生徒と話したり、先生に質問したりもできます。

学校に行かないことで学習の遅れに対する不安がありましたが、自宅にいてもしっかりと学習することができたため、少しずつ学校にも行けるようになり、来年からは希望する高校に進学することが決まりました。



小さいころから宇都宮を本拠地とするプロスポーツチームの応援をしてきた佐藤さんは、県外の大学に進学してからも、ファン同士で立ち上げたコミュニティに参加しながら、チームの応援を続けています。

このコミュニティでは、市内外の「宇都宮ファン」が交流しており、公式試合の時には必ずみんなで宇都宮に集まっています。大学卒業後も、引き続き「チーム宇都宮」の一員として宇都宮との関わりを続けたいと考えています。



②誰もが活躍でき、みんながまちづくりの主役に



東京から移住してきた小林さんは、駅に隣接した窓口で移住の相談をした際、居住地の自治会で運営しているアプリを案内されました。手続きが簡単だったので登録したところ、アプリでは、回覧板やイベントの予定など、住民同士で地域の情報が毎日更新されていました。

地域のいろいろな情報に触れるうちに、地域の人々や地域の活動が身近に感じられるようになった小林さんは、地域の員として、自治会活動に積極的に参加しています。

高橋さんは大学に在学中にフィールドワークに参加した際に、地域の子育て世帯を支援するサービスを提供している斎藤さんと出会いました。

この出会いをきっかけに、自分も地域の困りごとを解決する仕事がしたいと考えた高橋さんは、大学卒業後、斎藤さんをはじめ、様々な人の支援を受けながらNPOを立ち上げ、居場所がない子どもが集まるカフェの経営を始めました。



③暮らしに安心と生きがい



福田さんは離れて暮らしていた母親に介護が必要になったため、宇都宮市に引っ越して子どもとの3人暮らしを始めました。職場が遠くなりましたが、テレワークで仕事を続けています。

はじめは介護・子育てと仕事の両立ができるか不安でしたが、民生委員さんや共生型の相談窓口の職員が定期的に相談にのってくれて、福田さんの家庭の状況に応じた支援の内容を検討してくれることで、十分な支援の手を借りることができています。



定年で退職した石川さんは、ある時、知人から紹介されたシニア向けの起業セミナー等への参加を続けるうちに、長年続けてきた仕事での経験や人脈などを活かして、自分も起業することを決めました。

他の起業家仲間との交流を深めながら準備を進め、ついに、起業家向けのコワーキングスペース*を利用して会社を立ち上げることができました。石川さんは、75歳を迎える今でも、生計現役を目指して活躍を続けています。

* 宮っこの居場所：子どもや親が交わり、過ごす居場所

* コワーキングスペース：サテライトオフィスの一形態であり、複数の企業がフリーアドレス形式で利用するオフィス。特に利用者の連携・交流を促す特徴的な機能・空間等を有するオフィスあるいはスペースを指す。

人・モノ・情報が行き交う「地域経済循環社会」

①多様なライフスタイルが実現するまち



東京圏に住んでいた加藤さんは、宇都宮市でのテレワーク生活を体験する中で、交通手段が充実していることや、市内にイノベーション[※]を生み出す交流の場があり、全国から多様な人が集まっていることを知ったことで、移住を決意しました。

引っ越してきた今は、終業後や週末に異業種交流会などのイベントにも参加することで、移住前よりもコミュニティが広がり、働くことがより楽しくなりました。

保育園に通う子どもをもつ高橋さんは、夫婦と子ども3人で市の郊外部に暮らしながら、まちなかで働いています。

通勤時には、配車アプリを活用した自動運転の地域内交通で子どもを保育園に送りつつ、LRT^②でまちなかまで移動できるので、車の時間もゆとりを持つことができます。

夫婦共働きですが、お互いに柔軟な働き方をすることで、協力して子育てをしており、高橋さんも仕事終わりに友達と食事を楽しむことができるなど、子育て、仕事、そして自分の時間もしっかり確保でき、心にも時間にもゆとりを持っています。



中学生の田中さんは、まちなかで開催される国際的なスポーツイベントを観戦したことをきっかけに、宇都宮をホームタウンとするプロスポーツチームのファンになりました。

チームの応援をする中で、同じチームを応援していた海外の人と意気投合したため、スポーツイベントが終わった後も、外国語の勉強をし、オンラインで交流を続けています。

来年は、まちなかのスポーツイベントだけでなく、餃子や大谷地域など、宇都宮が持つ観光資源と一緒に巡ることを企画しています。

②誰もが学び、活躍できる



市内の高校に通う吉木さんは、小学校の授業などを通して地域の第一線で働く様々な大人との関わり合い、その体験の中で市の伝統工芸に携わる仕事がしたいという夢を持つようになりました。

親や学校の先生などの周りの大人たちは親身に相談にのり、応援してくれています。大学進学や卒業後の就職先も、市内には様々な選択肢があることも教えてもらい、育ったまちで夢をかなえるために日々努力しています。

市内に代々続く米農家の丁塚さんは、新しいことにチャレンジしてみようと考え、今まで馴染みのなかったデジタル技術の活用についての講座への参加を決めました。

2年のカリキュラムを終えた丁塚さんは、早速、オンラインで遠く離れた飲食店と取引を始めたり、水位や気温を遠隔で監視できる機器を導入したりと、デジタルを活用したサービスを展開することで、以前よりも売り上げを伸ばすことができました。



③人や企業が集まるまち



市内の企業を営営する菊地さんは、市内の他の企業とともに、様々な技術や製品を生み出してきました。近年は、東京の「宇都宮サテライトオフィス」^{※1}で東京圏の企業とも取引を始め、新たな製品やサービスを次々に展開しています。

この新サービスは全国的に評判となり、菊地さんの会社をはじめとする市内の企業と連携した製品やサービスの開発を希望する企業が宇都宮市に集まってきています。

大学の卒業を控えて就職活動中の河久津さんは、就職サイトなどインターネットで検索をしている際、バナー広告に表示されていた宇都宮市の情報を何気なく見てみました。

河久津さんは宇都宮市に縁もなく、就職先の候補に考えていなかったものの、情報に触れていくうちに、宇都宮市が最先端のデジタル・グリーン産業^{※2}が集まる、街くまちとして魅力あるまちであることを知り、宇都宮市の企業に就職することを決めました。



※ イノベーション：技術の進歩にとどまらず、これまでとは全く違った新たな考え方や仕組みを取り入れて新たな価値を生み出し、社会的に大きな変化を起こすこと

※1 宇都宮サテライトオフィス：東京都港区の「CIC Tokyo」内に設置した本市の東京圏における交流・活動拠点
※2 デジタル・グリーン産業：デジタル技術に役立つ産業分野とエネルギーやモビリティなど、低炭素に資する産業分野

CO₂排出量を実質ゼロとする「脱炭素社会」

①人にも地球にも優しいライフスタイル



大塚さんは、子どもと一緒に参加した環境学習講座をきっかけに、改めて環境問題に関心を持ち、地域の環境保全活動に参加するようになりました。

一緒に活動するお友だちから聞いた、物をシェアするサービスの利用も始め、子どもの服をシェアしてもらったり、自分も買いすぎたレトルト食品をシェアしたりしており、「もったいない」のこころを通して、住民同士で支え合う繋がりも感じています。



大島さんが住んでいる地域では、最近、地域内交通や電動キックボードなど、様々な公共交通が充実してきたことから、思い切って購入後15年以上経過している自動車2台のうち1台を手放すことにしました。

今は、再生可能エネルギーで走る電動キックボードとシェアを使い、CO₂を排出することなく、快適に通勤することができています。



出典：宇都宮市カーボンニュー・ハルロードマップ

②脱炭素な暮らしを支えるまち



他都市で暮らしていた山口さんは、仕事がテレワーク中心になってきたため、妻の出身地である宇都宮市に転居してきました。新居は妻の両親との二世帯住宅で、ZEH^{※1}にすることにしました。

件んでみて、光熱費も思ったよりかからない上に非常に快適になったと感じており、高齢である妻の父も、寒い時期のヒートショックの心配も少なくなり、安心して暮らしています。

県外出身で、宇都宮市内の大学に通い始めた阿部さんは、まちなかにおしゃれなお店や緑があふれる広場があることに気がついてから、歩いて出かける機会が増えてきました。

そのうち、よく行くお店の店員さんや、いつも広場で思い思いの時間を過ごしている人たちと顔見知りになるなど、宇都宮で新しい出会いが生まれています。



③再生可能エネルギーを創り・使う



光熱費が気になり始めた中村さんは、昨年、ついに自宅に太陽光発電と電気自動車を導入しました。太陽光発電で余剰に発電した部分は「宇都宮ライトパワー」^{※2}に販売しており、公共交通の脱炭素化にも貢献しています。

太陽光発電で消費電力を賄えない夜間は、EVバッテリーの電力を活用し、日中創った電気を無駄なく活用しています。災害時など、電気が使えなくなってしまう場合にも、必要な電力を確保できています。

宇都宮市内で飲食店を開業した橋本さんは、環境に配慮した営業を目指し、店舗に太陽光発電を導入するだけでなく、エリア内にあるコージェネレーションシステム^{※3}から排出される熱を使った空調を採用しています。余分にCO₂を削減できた分は「クレジット化」^{※4}することでちょっとした収益を得ています。

他にも、宇都宮市産の食材やフェアトレード製品^{※5}を使うなど、徹底的に環境に配慮した経営が話題となり、市内外から多くの方が訪れる人気のお店になっています。



※1 ZEH：効率的な省エネシステムや再生可能エネルギー等を導入することにより年間の一次エネルギー消費量の収支をゼロとすることを目標とした住宅。
 ※2 宇都宮ライトパワー：宇都宮市と民間事業者の共同出資により設立した小容量発電の導入と電力の供給を行う地産電力会社。
 ※3 コージェネレーションシステム：天然ガス、石炭、LPガス等を燃料として、エンジン、タービン、燃料電池等の方式により発電し、その際に生じる廃熱も同時に回収するシステム。
 ※4 クレジット：省エネ設備の導入や再生可能エネルギーの活用によるCO₂等の削減量、森林管理によるCO₂等の吸収量を、クレジットとして国が認定する制度。
 ※5 フェアトレード製品：開発途上国の原料や製造を適正な価格で地域的に購入する商品。

【将来のうつのみや像を達成するためのプロジェクト等の位置づけ】

個別具体的な事業は、総合計画を補完する個別分野別計画において推進

分野別計画については、基本構想に掲げる「まちづくりの基本方向（6つの未来都市）」により構成し、「戦略事業」と「施策の方向性」を体系化



複雑化・多様化する課題や市民ニーズに的確に対応し、まちづくりを加速化していくため、「スーパースマートシティ」を構成する「3つの社会」ごとに「まちづくり好循環プロジェクト」を設定

「スーパースマートシティ」の実現に向けた「原動力」である「人づくり」と「デジタルの活用」については、「まちづくり好循環プロジェクト」や戦略事業に積極的に取り入れていく。

【まちづくり好循環プロジェクト】

地域経済循環社会創出プロジェクト

取組テーマ①

多様な働き方ができる都市環境づくり

〈重点ターゲット〉

イノベーションの創出や人間性を高めることのできる空間

【横断プログラム】

- ◆ イノベーションを生み出す交流の場づくり
- ◆ ライフスタイルに応じた多様な働き方が叶うまちづくり

取組テーマ②

地域経済を支える多様な人材づくり

〈重点ターゲット〉

地域経済を支える多様な人材

【横断プログラム】

- ◆ 夢や希望に向かって挑戦する宮っ子を育む環境づくり
- ◆ 新たな仕事のスキルや知識を習得する機会の創出

取組テーマ③

各産業の強みを生かした持続的な産業構造の確立

〈重点ターゲット〉

グリーン・デジタル産業等の成長産業

【横断プログラム】

- ◆ リーディング企業等を中心とした新産業創出の促進
- ◆ グリーンやデジタルなど成長が見込まれる産業の集積、DXの推進

地域共生社会創出プロジェクト

取組テーマ①

地域共生の「場」づくり

〈重点ターゲット〉

子どもや若者

【横断プログラム】

- ◆ 子どもや若者の学びや体験を支えられる環境づくり
- ◆ 地域資源や地域特性を生かした交流の場づくり

取組テーマ②

地域共生の「人」づくり

〈重点ターゲット〉

新たな担い手

【横断プログラム】

- ◆ 若者の出会いや交流を通じた社会参加促進
- ◆ 地域課題の解決に向けた新たな価値の創出

取組テーマ③

地域共生の「仕組み」づくり

〈重点ターゲット〉

不安を抱える個人や家族

【横断プログラム】

- ◆ 市民の困りごとを丸ごと受け止める体制づくり
- ◆ 高齢者が元気で活躍しやすい環境づくり

脱炭素社会創出プロジェクト

取組テーマ①

スマート & ゼロカーボンムーブ

〈重点ターゲット〉

市内を移動する人

【横断プログラム】

- ◆ ライフスタイル転換によるスマートムーブの推進
- ◆ 公共交通と脱炭素モビリティの利用環境の整備

取組テーマ②

カーボンニュートラルなまちづくり

〈重点ターゲット〉

人が暮らす、過ごす場所

【横断プログラム】

- ◆ 脱炭素先行地域など、環境にやさしい都市基盤の整備とモデル地区の創出
- ◆ 建築物の脱炭素化の推進

取組テーマ③

再生可能エネルギー最大限導入・活用

〈重点ターゲット〉

エネルギーを創る人、使う人

【横断プログラム】

- ◆ 地域特性を活かした再生可能エネルギーの最大限導入
- ◆ 地域新電力を核とした再生可能エネルギーの地産地消の推進